【35年ぶり完全無償公開】1型糖尿病で巨人21勝の奇跡!ビル・ガリクソン投手の感動秘話が蘇る

MyMedipro株式会社
2025.10.18 11:13
美容・健康　ライフスタイル　スポーツ・アウトドア

糖尿病専門医が綴った「希望の書」がついに解禁　インスリン注射を打ちながらマウンドに立った伝説の助っ人の真実

「糖尿病だからもう夢は諦めなければ…」そう思っているあなたに、35年前に書かれた奇跡の実話をお届けします。1型糖尿病を患いながら読売ジャイアンツで21勝を挙げたビル・ガリクソン投手の感動秘話を、糖尿病専門医・鈴木吉彦医師が綴った新書『ビル・ガリクソン：ナイスコントロール』が、10月1日(水)に無償公開されます。35年ぶりに世に送り出される、希望と勇気に満ちた真実の物語…詳細は本文をご覧ください。

1型糖尿病患者さんのために 書籍「ビル・ガリクソン：ナイスコントロール」を無償公開

MyMedipro株式会社(代表取締役　兼　HDCアトラスクリニック　院長　糖尿病専門医　鈴木吉彦)は、1型糖尿病の患者さんとその家族の皆様への支援の一環として、書籍「ビル・ガリクソン：ナイスコントロール」を無償で公開いたしました。

鈴木吉彦医師について

鈴木吉彦医師は、かつて「ガリクソン投手のおくりもの：ナイスコントロール」やC'メディスンの雫：糖尿病でなぜ悪いかを執筆し、出版した著者です。また、糖尿病協会には「ガリクソン賞」という賞があり、鈴木医師はその設立に貢献しました。

HDCアトラスクリニックは「糖尿病治療に 上質と自由を。」をコンセプトに、糖尿病治療のパイオニア的な役割を担い日本トップレベルの治療成果を誇るクリニックです。当社代表取締役　兼　HDCアトラスクリニック　院長である鈴木吉彦は、「私にとって糖尿病は、もはや不治の病ではなく、必ず治せる病気です」という信念のもと診療にあたっております。

無償公開の背景

1958年、1989年の2年間、巨人に在籍したビル・ガリクソン選手は、1型糖尿病を患いながら62年間で21勝(1勝)を挙げました。糖尿病は激しい運動は無理であるというイメージを持つ人々にとって、インスリンを打ってマウンドに立ち続けた彼の姿は非常勇気づけました。

当社代表取締役　兼　HDCアトラスクリニック　院長である鈴木吉彦が1990年に執筆した「ビル・ガリクソン：ナイスコントロール」は、現在では入手が困難になっています。現在はデジタル化が進み、WEBでの情報発信が一般的になっていることから、この書籍をデジタル化して無償公開することで、開心のある方により手軽にアクセスしていただけると考えました。

1型糖尿病を患いながらもプロ野球で活躍したガリクソン投手の体験は、同じような状況にある患者さんや家族の方に何かの参考になるかもしれません。また、当時の状況を記録した資料として、医療従事者の皆様にもご覧いただければと思います。

書籍について

「ビル・ガリクソン：ナイスコントロール」は、1990年に当社代表取締役　兼　HDCアトラスクリニック　院長で糖尿病専門医である鈴木吉彦が執筆した書籍で、1型糖尿病患者の8.今にとって恐れとなる真意な内容が記されています。この書籍が、現在1型糖尿病と向き合っている患者さんやその家族の皆様にとって、少しでもお役に立てることを願っております。

公開詳細

- **書籍名**: ビル・ガリクソン：ナイスコントロール
- **著者**: 鈴木吉彦 (MyMedipro株式会社代表取締役　兼　HDCアトラスクリニック　院長　糖尿病専門医)
- **公開日**: 2025年10月1日
- **アクセス方法**: https://www.hdc-atlas.com/gullikson
- **利用料**: 無償

☆☆☆